

目 的

ミヤコタナゴをはじめとする希少魚類の野生絶滅を防ぐためには、野外に新たな生息地を創出し、安定した存続を図っていくことが必要と考えられている。<sup>1)</sup>そこで、現在ミヤコタナゴは生息していないが、産卵母貝となる二枚貝の生息が確認されている1水路(18G水路、本誌 p38~39 参照)について、ミヤコタナゴ稚魚の生息環境評価モデル<sup>2)</sup>を用い、稚魚の生息地としての適性を評価した。

材料および方法

**ミヤコタナゴ稚魚の生息適性評価** マツカサガイが生息する 18G 水路において測定した水深、流速、水上カバー（水面上の陸上植物、抽水植物、枯草、木の根、枝および倒木）の有無、カバー（水中の抽水植物、陸上植物、枯草、木の根、枝、倒木および水路壁のえぐれの有無）生息環境データを用いて稚魚の生息環境の評価（生息確率解析）<sup>2)</sup>を行った。

結果および考察

**ミヤコタナゴ稚魚の生息適性評価** ミヤコタナゴ稚魚の生息確率が 75%以上と評価された 18G 水路の地点の割合は 13.3%で、ミヤコタナゴの安定的な生息が確認されている県南東部に位置するミヤコタナゴ生息地（以下、A 生息地）（生息確率 75%以上と評価された地点の割合は 18.1%）に近い稚魚の好適な生息環境が存在することが分かった（図 1）。

近年まで県内平野部の農村地域には 6 カ所のミヤコタナゴ生息地があった。しかし、現在の生息地は 4 カ所のみである。特に、大田原市の羽田生息地では生息水路環境の悪化でミヤコタナゴの繁殖に欠かせない二枚貝が減少し、生息地消滅の危険性が高い状況にある。本種の野生絶滅を防ぐためには、生息地の維持・復元に加え、新たな生息地の創出も考慮しておく必要がある。

今後も、二枚貝の生息地（水路）のモニタリングやミヤコタナゴ稚魚の生息環境の評価を実施する必要がある。将来的なミヤコタナゴの生息候補地を確認しておくことが重要である。また、新たな生息地の選定に際し、稚魚の生息環境と併せて、本種の安定的な再生産を担保するためにも、繁殖母貝となる二枚貝の安定

的な生息条件等を把握することが必要であると考えられる。

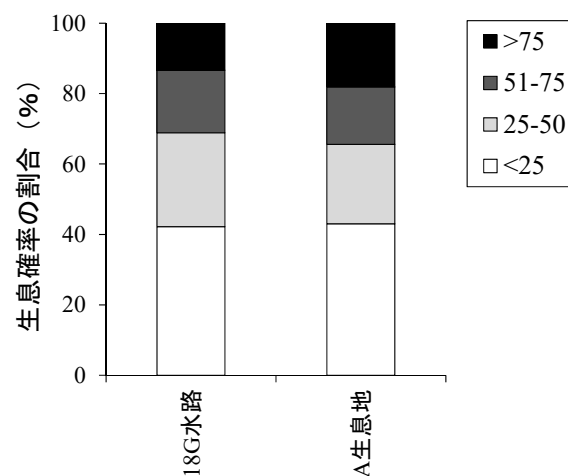


図 1 二枚貝生息地におけるミヤコタナゴ稚魚の生息確率の割合の比較

引用文献

- 1) 環境省. ミヤコタナゴ保護増殖事業計画. 1995. <https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/pdf/jigyokeikaku/miyakotanago.pdf>
- 2) 網川孝俊・酒井忠幸・久保田仁志. 第Ⅱ章ミヤコタナゴ野生個体群を長期的に存続させるために—自然生息地における繁殖補助と生息環境の創出の試み—. 淡水魚保全の挑戦: 水辺のにぎわいを取り戻す理念と実践. 日本魚類学会自然保護委員会編. 東海大学出版, 東京. 2016; 51-65.

(指導環境室)